

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

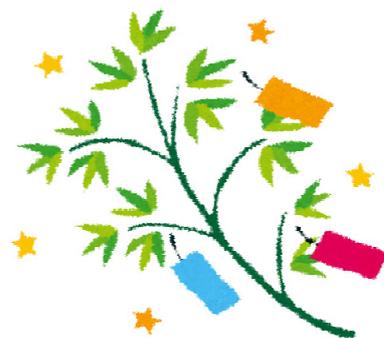
彼女がこどもに残したもの

ブログ「KOKORO.」は先月22日に34歳の若さで亡くなったフリーアナウンサー小林麻央さんの遺作となっていました。乳がんを患ってから綴りはじめたブログには日々の闘病生活の息苦しさだけではなく、健康であることが当たり前である私たちが見落としてしまうような日常の小さな感動と、人が病を抱えてはじめて気づく「いのちの尊さ」を私たちに静かに伝えてくれました。

SNSが発達し、無名のひとりであっても、同じ悩みや苦しみをもつ無数の友に自分の思いを打ち明けられることができる時代になりました。病と向き合い、ひとり病室で人生の到達点を眺める日々から、体は動かずとも、不安と闘い、悩み、思いをめぐらし、たどりついた思考なり決意を打ち明けることで同じ苦しみを抱える人や共感する人たちがいつしか顔知れぬ友になれることを彼女が証明してくれたのです。ブログは彼女にとって生きてきた証のひとつに過ぎないかもしれませんが、彼女が「今を書きとめた」ことが、いつでもそれを振り返ることができる人にとっては、たとえ彼女の姿が目の前から消え去ってしまっても、それぞれの「KOKORO.」にひょっこりと顔を出すときがあることでしょう。

彼女が残したブログは闘病記とは異なる筆致です。

こどもさんはまだ母親に甘えたい5歳の女の子と4歳の男の子です。母が生きた証となった文章には、残されたこどもたちがこの先、対峙することになるであろう人生の苦悩を跳ね返すエネルギーに満ちています。彼女がブログに託した思いが伝わってくるようです。



当社では毎年、たくさん的高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎